

# 政令指定土壌改良資材

# テンポロン

10kgボリ

## テンポロンの効果

根張りが良くなります

テンポロンを土壌に施肥しますと、特有の団粒が形成され、通気性・排水性・保水性が向上し、土壌環境が良くなります。

リン酸の肥効増進

テンポロンは土中でリン酸と結合して、鉄やアルミニウムとの結合を減らし、リン酸の不溶化を防ぎます。

耐久性・浸透性

テンポロンは高温高圧の製造過程を経ることで、構造が複雑化し、分解されにくくなっており、耐久性が長く、土中深くまで浸透します。

省力化・経済的

テンポロンの腐植は耐久性があるため微生物による分解が少なく、また有効な腐植が濃縮されているため、少量の施用で土壌中の腐植量を効率よく維持していきます。

### テンポロンの分析値

(日本肥料検定協会による分析)

比重	0.56	水分	58.33%
窒素全量	0.77%	有機炭素	15.00%
リン酸全量	0.09%	有機物	25.98% (乾物当り62.35%)
加里全量	0.08%	腐植酸	9.87% (乾物当り23.69%)
pH(乾物)	6.8	有機物中の腐植酸含有量	37.99%
pH(現物)	6.9	陽イオン交換容量	102meq/100g(乾物)



日東エフシー株式会社

テンポロンは、北海道サロベツ原野で産出する草炭(1,500~2,000 年体積物)を原料として高温・高圧のもと石灰中和処理した、たくさんの腐植酸を含有する、政令指定有機質土壌改良材です。

## テンポロンの使用方法

作物	使用量		使用方法	
果樹	新植	1~3 kg/本	植穴を掘り、掘り上げた土に混ぜ、植えつける。	
	成園	100~150 kg/10a	樹冠下に全面散布し、浅くすき込む。	
そさい	苗床	1~3 kg/3.3 m <sup>2</sup>	床土に混ぜ合わせる。(ポット育苗の場合 5~10%)	
花	本圃	施設	1~2 kg/3.3 m <sup>2</sup>	畦面または植穴にまき、軽く混ぜ合わせる。
		露地	100~150 kg/10a	全面に散布し、軽くすき込む。
たばこ	子床	20~40 kg/3.3 m <sup>2</sup>	床土によく混ぜる。	
	本圃	100~150 kg/10a	全面に散布し、軽くすき込む。	
水稻	箱育苗	10 kg/10a 分の苗箱	床土によく混ぜる。	
	本田	50~70 kg/10a	耕うん又は代かき時に全面散布する。	
緑化	高木	10~40 kg/本	植穴を掘り、掘り上げた土に混ぜ、植えつける。(植穴の大きさで量を調節します。)	
植栽	中低木	1~3 kg/本	植穴を掘り、掘り上げた土に混ぜ、植えつける。	
芝	新規造成	2~3 kg/m <sup>2</sup>	上層部 15cm 位の深さに混和してすき込む。	
	既成芝地	0.3~0.5 kg/m <sup>2</sup>	直接散布し、レーキ又は竹ぼうきで均一にすり込みその後目土用の砂を散布する。	

テンポロンの腐植は、完熟堆肥中の腐植の 20 倍相当量になります。しかも、使いすぎによる害もありませんので、適宜応用して使用してください。

製造元

 **日東エフシー株式会社**

取扱店